様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 １３ 日現在

機関番号：１４７０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2016
課題番号：２６３８１２６８

研究課題名（和文）[絵画・以降]の時代に構想する絵画教育の題材・カリキュラム開発

研究課題名（英文）Curriculum Development in Painting Education in the "Post-painting Age"

研究代表者
永守　基樹（NAGAMORI, Motoki）

和歌山大学・教育学部・教授

研究者番号：４０１６４４７０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は[絵画･以降]というべきモダニズム美術の終焉以降の美術教育のディシプリンをモダニズム絵画の歴史を批判的に遡行することに探ろうとするものである。本プロジェクトに先行する、Ｆ・ステラ(2012)、Ｇ・リヒター（2012）、Ｅ・ケリー（2013）、Ｂ・マーデン（2013）の絵画に関する題材開発を踏まえ、Ｐ・モンドリアン(2014)、Ｈ・マティス（2015）等の絵画の題材開発を行い、ミニマル絵画からマティスへと遡行する絵画教育のカリキュラムを開発した。
　また、カリキュラムを貫く絵画の基本的ディシプリンとして、[図と地]の構造と、[ドローイングとペインティング]という二組の概念を抽出した。

研究成果の概要（英文）：This research aims to explore the discipline of art education in “Post-Painting era” by critically rethinking the history of modernist paintings. Based on the teaching subjects regarding the paintings of F.Stella (2012), G.Richter (2012), E.Kelly (2013), B. Marden (2013), this research developed the teaching subjects of painting by P. Mondrian (2014), H. Matisse (2015) to establish the curriculum of painting education which surveys the history from minimal paintings to Matisse. In addition, as a basic discipline of the painting which is the center of the curriculum, I focused on the two important conceptions of (1) the "figure and ground" and (2) the "drawing and painting".

研究分野：美術科教育

キーワード：絵画教育　美術教育　カリキュラム開発　題材開発　モダニズムとポストモダニズム　絵画史　ペインティング　ドローイング

１．研究開始当初の背景

(a) 絵画の凋落のなかで絵画教育を再び美術教育の基軸に位置づける

絵画は、明治以降の美術教育において美術教育の中核であった。初等教育から専門教育にいたるまで、絵画は 1970 年代までの美術教育の実践と研究の主役であったのである。しかし、1970 年代の「造形遊び」の登場以降、[美術史の終焉]を背景として、絵画は子どもの表現を担う力を弱めてきた（拙論「子どもの絵のリアリティが生まれる場所−身体から絵画平面へ」2013）。

本研究は、モダニズム絵画を美術教育の基礎教育と基本教育の双方のなかに、再度、明確に位置づける試みである。

(b) 絵画を美術教育の基軸的ディシプリンとすることで美術教育全体を再構造化する

1970 年代の「造形遊び」に続き、1980 年代以降の「鑑賞教育」、1990 年代以降の「ワークショップ」や「総合的な造形活動」への注目という史的展開のなかで、美術教育のカリキュラムは脱構築化され、その枠組みは柔らかなものになってきた。同時に構成主義的教育観などを背景として、美術教育の理論的な探究の枠組みも曖昧な状態を続けてきたと言えるだろう。

本研究は、そのような状況のなかで美術教育にディシプリンを再度形成しようとするものある。

２．研究の目的

本研究は、モダニズム以降の時代における美術教育の基軸的ディシプリンをモダニズム絵画に探り、芸術創造に関わる教育の基本として絵画教育のビジョンを再考し、その理念・カリキュラムを探求するものである。

H・ベルティング『美術史の終焉？』(1985) が示したように、絵画が造形芸術の中核・牽引車としての地位を失って 30 年以上が過ぎた。芸術のメディア的拡散は美術教育に大きな影響を与え、美術教育のディシプリンは溶解しつつある。本研究は、[絵画・以降]の時代に、(1)モダニズム絵画が示す諸価値が、美術教育全体の基軸として機能することを、理論的に明確にするとともに、(2)モデル・カリキュラムを開発し、実践的に検証を行うことが研究の全体構想である。

具体的研究目標

(a)美術教育における基軸的なディシプリンとして、モダニズム絵画の諸方法を構造化する

19 世紀中葉から 1970 年代に至る近代絵画史のなかに、美術教育の基軸となるべきディシプリンを抽出する。近代絵画史には、絵画から言語や物語性を排し、純粋な視覚的造形性を志向する還元主義がある。この還元主義のなかで、古典的な絵画（タブロー）の空間再現や[地と図]構造が解体されたのだが、この還元と解体のなかに、美術と子どもの表現は出会ったのである。この出会いは 20 世紀初頭の時点で[創造主義美術教育]を生み、1970 年代において[造形遊び]を生んだ。本研究では、21 世紀初頭の時点から、それらを総括しつつ、モダニズム絵画の示すディシプリンを価値づけたい。

(b) 1970 年代ミニマル絵画から 1950 年代抽象表現主義絵画を経て、1920 年代抽象絵画へと遡行するカリキュラムを開発する

上記でのディシプリン検討で浮上する[色]や[形]、[地と図]構造の生成と還元は、1970 年代に見られる（ア）[ドローイング]と（イ）[ミニマル絵画]から、1950 年代抽象表現主義絵画を経由して、20 世紀初頭へと美術史を遡行することによって、構造化できると考えている。（ア）[ドローイング]については、既に平成 25 年度にカリキュラム構想を示した。本研究では、絵画が還元された果てに見せる最終形態とでもいうべき（イ）[ミニマル絵画]から、1950 年代の色面抽象絵画、そして 20 世紀初頭の抽象絵画へと遡行するカリキュラムを構想する。

３．研究の方法

研究の内容は以下の３つのレベルの内容・方法に分けられ、レベル１−２を１，２年次に、第３年次にカリキュラム開発とまとめを行った。

【レベル１：絵画史からのディシプリン抽出】

モダニズム絵画とその史的展開から、美術教育のディシプリンとしての内容を持つ価値を抽出した。[文献研究と美術史家と美術教育者の討議]

「プロジェクト・モンドリアン」によって、モダニズム絵画のエッセンシャルな価値をドローイングとペインティングの相互作用のなかに焦点化し、計画を前倒しして題材開発と実践検証を行った。

【レベル２：題材開発】

抽出した価値を題材化し、実践し、検証する。[美術教育実践者と美術教育理論家との討議、題材開発、実践への参加]

【レベル３：カリキュラム開発】

各々の題材について、基本的なディシプリンとしての観点から再検討し、カリキュラムを構成する。[カリキュラム開発、カリキュラム検証、教育学者との討議]

平成 26 年度においては「プロジェクト・マティス」によって、絵画教育のディシプリ

ンの基軸として「[図と地」構造の形成を措定し、題材開発と検証を行った。
平成 27 年度においては、前年度までに理論的探究と題材開発を通じて抽出したモダニズム絵画の基本ディシプリンである①「図と地」構造の形成と、②ドローイングとペインティングの往還、の２点について、その理論的根拠をさらに深く探求した。

４．研究成果
本研究は[絵画･以降]というべきモダニズム美術の終焉以降の時代における美術教育のディシプリンを、モダニズム絵画の歴史を批判的に遡行することに探り、そのディシプリンに基づくカリキュラムを開発しようとするものある。本研究代表者と協力者たちは先行する研究プロジェクトとして、平成 24 年度において、Ｆ・ステラ(Frank Stella)、Ｇ・リヒター（Gerhart Richeter)、平成 25 年度においてはＥ・ケリー（Ellesworth Kelly)、Ｂ・マーデン（Brice Marden）の、それぞれの絵画に関する題材開発を行ってきた。それらは、20 世紀後半におけるモダニズム絵画の最終的なかたち（形式）についての探求といえるだろう。本研究プロジェクトは、それらを踏まえ、平成 26 年度にＰ・モンドリアン(Piet Mondorian)、平成 27 年度にＨ・マティス（Henri Mattise）等の絵画に関する題材開発を行った。この一連の絵画題材群はシークェンスを形成し、ミニマル絵画からマティスへと遡行する絵画教育のカリキュラムとして機能することが期待されるものである。
また、カリキュラムを貫く絵画の基本的ディシプリンとして、[図と地]の構造と、[ドローイングとペインティング]という二組の概念を抽出した。これらの概念を通じて、上記の絵画教育カリキュラムは、単なる様式の歴史的羅列ではなく、絵画というメディアの本質に根ざす価値創造の方法として美術教育の基盤に位置づけられることが可能になる。
本研究プロジェクトは、研究期間中の美術科教育学会大会（平成 26 年度上越大会、平成 27 年度大阪大会、平成 28 年度静岡大会）において研究代表者と協力者３－４名によって口頭発表における成果公表を行ってきた。また各題材とカリキュラムの実践による検証と改善を今後推進するものである。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 9 件）
① 永守 基樹【論文】研究プロジェクトの前提と方法-実践的美術教育研究としての題材・カリキュラム開発『美術教育実践研究 No.2』,査読無,2017 年 3 月 20 日、単著、pp.2-5

② 保富 仁之【論文】プロジェクト・モンドリアン-線と面のダイナミズムが創造を支える『美術教育実践研究 No.2』、査読無、2017 年 3 月 20 日、単著、pp.6-9

③ 湯川 雅紀【論文】プロジェクト・マティス-ドローイングが色面を生成する『美術教育実践研究 No.2』、査読無、2017 年 3 月 20 日、単著、pp.16-19

④ 鷹木 朗【論文】芸術創造の原型を体験的に理解するための絵画教育-ドローイングとペインティングの往還から『美術教育実践研究 No.2』、査読無、2017 年 3 月 20 日、単著、pp.36-39

⑤ 永守 基樹＋鷹木 朗＋湯川 雅紀＋南洋平＋保冨 仁之【報告】シンポジウム[絵画･以降]の時代に構想するマティスへと遡行する絵画教育、ゲスト討論者：大嶋彰+岡山康明+山木朝彦『美術教育実践研究 No.2』、査読無、2017 年 3 月 20 日、共著、pp.46-84

⑥ 鷹木 朗【論文】ドローイングからペインティングへと展開する題材開発の試み-[絵画・以降]の時代に構想する絵画教育として『美術教育実践研究 No.2』、査読無、2017 年 3 月 20 日、単著、pp.85-91

⑦ 鷹木 朗【研究ノート】「ドローイングとペインティングの透き間に － 絵画をめぐる時間を考えることから － 」『京都造形芸術大学紀要 2014 GENESIS 19』、査読無，京都造形芸術大学，2015 年 11 月 1 日、単著、pp.137-147.

⑧ 鷹木 朗【論文】「絵画における時間の多層性について」『美術教育学研究 第 46 号』、査読無、大学美術教育学会、2014 年 3 月、単著、pp.141-148.

⑨ 湯川 雅紀【学術論文】「ゲルハルト・リヒターの抽象絵画が拓く絵画教育―学校美術教育におけるリヒター絵画の題材化とその実践―」『美術教育学（美術科教育学会誌)』、査読有、第 35 号、2014 年 3 月、単著、pp.523 -533.

〔学会発表〕（計 13 件）
① 永守 基樹＋鷹木 朗＋湯川 雅紀＋南洋平＋保冨 仁之【シンポジウム＋研究発表】和歌山大学美術教育研究会主催シンポジウム「[絵画･以降]の時代に構想するマティスへと遡行する絵画教育」,ゲストパネラー：大嶋彰，大阪成蹊大学，2016 年 3 月 19 日

② 永守 基樹【学会発表】「[絵画・以降]の時代に構想するマティスへと向かう絵画教育」,『第 38 回美術科教育学会大阪大会』大阪成蹊大学,2016 年 3 月 19 日，単著，口頭発表.

③ 保富 仁之【学会発表】「[絵画・以降]の時代に構想するマティスの“装飾的室内”絵画の題材化」『美術科教育学会大阪大会』大阪成蹊大学，2016 年 3 月 19 日，単著.

④ 湯川 雅紀【学会発表】「[絵画・以降]の時代に構想するマティス“JAZZ”の題材化―図画工作教育におけるマティス流コラージュの可能性―」美術科教育学会第 38 回大会『研究発表概要集』大阪成蹊大学，2016 年 3 月 19 日，単著， p.19.

⑤ 南 洋平【学会発表】「[絵画・以降] の時代に構想するマティス絵画の題材化‐マティスの「ダンス」「音楽」をモデルとする絵画表現，大阪成蹊大学，2016 年 3 月 19 日，単著

⑥ 永守 基樹【学会発表】「[絵画・以降]の時代における絵画題材の開発- モンドリアン作品の題材化を焦点として-」「第 37 回美術科教育学会上越大会」上越教育大学，2015 年 3 月 28 日，単著.

⑦ 永守 基樹【シンポジウム発表】「図工・美術科の教育課程構想と美術教育研究」造形芸術教育協議会・シンポジウム『教育課程改訂に向けて美術教育研究は何を提起できるのか?』2015 年月 2 月 22 日，静岡駅ビルパルシェ

⑧ 保富 仁之,南 洋平【学会発表】「[絵画・以降]の時代における抽象絵画の題材化-モンドリアンの線を主題として-」『美術科教育学会上越大会』上越教育学,2015 年 3 月 28 日,共著.

⑨ 保富 仁之【学会発表】「[絵画・以降]の時代におけるデ・ステイル絵画の高校美術題材化」『美術科教育学会上越大会』，上越教育大学,2015 年 3 月 28 日，共著.

⑩ 湯川 雅紀【学会発表】「[絵画・以降]の時代におけるモンドリアンの図画工作科での展開―面・線とその色彩がもたらすもの―」美術科教育学会第 37 回大会『研究発表概要集』上越教育大学,2015 年 3 月 28 日，共著， p.19.

⑪ 南 洋平【学会発表】「[絵画以降] の時代における抽象絵画の題から‐」美術科教育学会第 37 回大会『研究発表概要集』上越教育大学,2015 年 3 月 28 日

⑫ 西井 惠美子【シンポジウム】「美術教育における言語活動」, 美術科教育学会奈良大会，佐藤学、藤江充、他の４名による討議，奈良教育大学，2014 年３月 27 日.

⑬ 南 洋平【学会発表】「[絵画以降] の時代におけるデ・ステイル絵画の高校美術題材化‐モンドリアンとドゥースブルフの作品に基づく高等学校美術科での展開‐」, 美術科教育学会, 奈良教育大学, 2014 年 3 月 27 日，共著（南・保富）

〔図書〕（計 2 件）

① 西井 惠美子【著書】『シリーズ 新時代の学びを創る　図画工作科・美術科 理論と実践 新しい表現と』,池永真義編，あいり出版　2016，分担：pp.226-236.

② 鷹木 朗【著書】『保育士・教員養成課程における幼保小連携を踏まえた表現教育カリキュラムの開発』, 2015年3月31日，あいり出版，山野てるひ・岡林典子・ガハプカ奈美・鷹木朗　共著，27 頁担当.

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
永守　基樹（NAGAMORI,Motoki）
和歌山大学・教育学部・教授
研究者番号：40164470

(2)研究分担者
(　　)

研究者番号：

(3)連携研究者
(　　)

研究者番号：

(4)研究協力者
鷹木　朗（TAKAGI,Akira）
（京都造形芸術大学准教授）

湯川　雅紀（YUKAWA,Masaki）
（関西福祉科学大学准教授）

保富　仁之（HOTOMI,Hitoshi）
（和歌山県立田辺高等学校教諭）

南　洋平(MINAMI,Yohei)
（和歌山県立粉河高等学校教諭）

西井　惠美子(NISII,Emiko)
（和歌山市立雄湊小学校教諭）